国　　語

1　学習指導要領改訂の趣旨

中央教育審議会答申（以下「答申」という。）においては、小・中・高等学校の国語科の課題が示されており、高等学校では、「教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある。また、文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること、古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている」と指摘されている。

答申で示された小・中・高等学校の国語科の成果と課題や、高等学校において育成を目指す資質・能力を踏まえて改善された。

2　改訂の内容

(1) 教科の目標の改善

【国語科の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科の目標の主な改善ポイントのは次のとおりである。

○　国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力」と規定した。
○　国語科で育成を目指す資質・能力を育成するためには、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示した。

国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を的確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を効果的に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を的確に理解する資質・能力、国語を効果的に使う資質・能力を含んだものである。

言葉による見方･考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることとなる。

(2) 科目の改善

ア　科目構成

改　訂		現　行	
科　目　名	標準単位数	科　目　名	標準単位数
現代の国語	2	国語総合	4
言語文化	2	国語表現	3
論理国語	4	現代文A	2
文学国語	4	現代文B	4
国語表現	4	古典A	2
古典探究	4	古典B	4

・共通必履修科目は「現代の国語」及び「言語文化」。

・選択科目は「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」。

・「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、原則として、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修させる。

イ　学習内容の改善・充実

今回の改訂では、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善している。以下に改善点の一部を示す。

(ｱ) 語彙指導の改善・充実

答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高めることである。このことを踏まえ、小・中学校との系統を重視し、科目の性格を踏まえて指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を示している。

(ｲ) 「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する指導の改善・充実

答申においては、高等学校国語科の課題として、「話合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」と指摘されていることを踏まえ、共通必履修科目の〔思考力、判断力、表現力等〕における「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の授業時数を増加している。

	〔思考力、判断力、表現力等〕		
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	○	○	○
言語文化		○	○
論理国語		○	○
文学国語		○	○
国語表現	○	○	
古典探究			○

「古典探究」を除く科目において、〔思考力、判断力、表現力等〕に「書くこと」の領域を設け、論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図った。

(ｳ) 授業改善のための言語活動の創意工夫

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にした。

なお、言語活動を行う際は、以下の点に注意する必要がある。

・示された言語活動は例示であるため、各学校では、これらの全てを行わなければならないものではなく、これ以外の言語活動を取り上げることも考えられること。
・当該領域において示した資質・能力は言語活動を通して育成する必要があること。
・育成を目指す資質・能力（目標）と言語活動とを同一視しないよう十分留意すること。

例えば、話合いの言語活動が、必ずしも「話すこと・聞くこと」の領域の資質・能力のみの育成を目指すものではなく、「書くこと」や「読むこと」における言語活動にもなりうる。

(ｴ) 各領域の授業時数、取り上げる教材の明確化

〔思考力、表現力、判断力等〕の各領域の指導事項に示した資質・能力が確実に育成されるよう、これまで共通必履修科目の「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域に示していた授業時数を、複数の領域をもつ全科目について、以下のとおり設定するとともに、主として「読むこと」の指導で取り上げる教材について、科目の性格に応じて、より明確に設定した。

各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">〔思考力・判断力・表現力等〕</td></tr>
<tr><td></td><td>話すこと・聞くこと</td><td>書くこと</td><td>読むこと</td></tr>
<tr><td>現代の国語</td><td>20～30単位時間程度</td><td>30～40単位時間程度</td><td>10～20単位時間程度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語文化</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">５～10単位時間程度</td><td>【古典】
40～45単位時間程度</td></tr>
<tr><td>【近代以降の文章】
20単位時間程度</td></tr>
<tr><td>論理国語</td><td></td><td>50～60単位時間程度</td><td>80～90単位時間程度</td></tr>
<tr><td>文学国語</td><td></td><td>30～40単位時間程度</td><td>100～110単位時間程度</td></tr>
<tr><td>国語表現</td><td>40～50単位時間程度</td><td>90～100単位時間程度</td><td></td></tr>
<tr><td>古典探究</td><td></td><td></td><td>※</td></tr>
</table>

（※「古典探究」については、１領域のため、授業時数を示していない。）

(ｵ) 読書指導の改善・充実

各科目において、国語科の学習が読書活動に結び付くよう、〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

ウ　各科目の特徴

＜現代の国語＞

【「現代の国語」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

※　高等学校国語科の目標と同様、「現代の国語」において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、それぞれに整理された目標を位置付けている。（※については、他科目も同様。）

(ｱ) 科目の性格

○　実社会における国語の資質・能力の育成に主眼を置く。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)情報の扱い方に関する事項」を充実させている。

・〔思考力・判断力・表現力等〕においては、これまで指導が十分でないとされてきた表現力の育成を目指すため、「Ａ話すこと・聞くこと」「Ｂ書くこと」の指導事項を充実させている。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ　読むこと」の教材は、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ　話すこと・聞くこと」、「Ｂ書くこと」及び「Ｃ　読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

＜言語文化＞

【「言語文化」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(ｱ) 科目の性格

○　上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置く。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)我が国の言語文化に関する事項」を充実させている。

・〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「Ｂ読むこと」とともに、言語文化に関する表現力の育成を目指すため「Ａ書くこと」の指導事項を充実させている。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに、我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。また、必要に応じて、伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができること。

○　古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ書くこと」及び「Ｂ読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

＜論理国語＞

【「論理国語」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(ｱ) 科目の性格

○　実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする国語の資質・能力の育成に重視している。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)情報の扱い方に関する事項」を充実させている。

・〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「Ｂ読むこと」とともに「Ａ書くこと」の指導事項を充実させている。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ書くこと」及び「Ｂ読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

＜文学国語＞

【「文学国語」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(ｱ) 科目の性格

○　深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばしたり、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視している。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)我が国の言語文化に関する事項」を充実させている。

・〔思考力・判断力・表現力等〕においては、「Ｂ読むこと」とともに、「Ａ書くこと」の指導事項を充実させている。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は、近代以降の文学的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ書くこと」及び「Ｂ読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

＜国語表現＞

【「国語表現」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(ｱ) 科目の性格

○　他者とのコミュニケーションの側面の力を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視している。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)我が国の言語文化に関する事項」の２事項を扱う。

・〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「Ａ話すこと・聞くこと」、「Ｂ書くこと」の２領域から内容を構成している。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ話すこと・聞くこと」の教材は、必要に応じて、音声や画像の資料などを用いることができること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ話すこと・聞くこと」及び「Ｂ書くこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

＜古典探究＞

【古典探究」の目標】		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(ｱ) 科目の性格

○　古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視している。

・〔知識及び技能〕においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2)我が国の言語文化に関する事項」の充実を図っている。

・〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「Ａ読むこと」の１領域から内容を構成し、その充実を図っている。

(ｲ) 教材についての留意点

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ読むこと」の教材は、古典としての古文及び漢文とし、日本漢文を含めるとともに、論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げること。また、必要に応じて、近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。

○　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ａ読むこと」の(2)に掲げる言語活

動が十分行われるよう教材を選定すること。

○　教材は、言語文化の変遷について理解を深める学習に資するよう、文章の種類、長短や難易などに配慮して適当な部分を取り上げること。

3　質疑応答

問１　新学習指導要領「総則」において国語科と関連する部分はどこか。

総則第２款の２(1)において、言語能力を「学習の基盤となる資質・能力」の一つとして「教科横断的な視点」で育成していくこととしている。また、第３款の１(2)において、言語能力の育成を図るために、「各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。」とあるとおり、言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点からカリキュラム・マネジメントの充実を図ることが重要である。

現行の学習指導要領においても、総則第５款５の(1)に言語活動の充実について示されており、「各教科・科目等においては、国語科で育成した能力を基本に言語活動を充実していく」ことが、現行の高等学校学習指導要領解説国語編にも記載されているが、新学習指導要領においては総則の本文に「国語科を要と」することが記載されている。

その他、道徳教育との関連、学校設定科目、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る工夫について、新しい高等学校学習指導要領解説国語編（以下「解説」という。）「第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の「３　総則関連事項」に記載されている。

問２　各科目の内容において「書くこと」が重視される意図は何か。

答申において、高等学校国語科の課題として「話合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」と指摘されたことを受け、「古典探究」を除く５科目において、〔思考力、判断力、表現力等〕に「書くこと」の領域を設け、論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図った。特に、論理的な文章を書く資質・能力の育成については、近年、大学の初年次教育において、論文やレポートなどの書き方に関する講義が必要となっていることなどを踏まえ、「現代の国語」や「論理国語」を中心に充実を図っている。

問３　各科目の内容に「読書の意義と効用について理解を深めること」とあるが、生徒が自主的に読書をするよう促す指導を従来から行っているが、それでよいか。

各科目の〔知識及び技能〕の「(3) 我が国の言語文化に関する事項」に読書の指導事項として設定されており、各科目の性格に応じた内容の読書活動に結び付くよう、系統的に指導することが求められる。

全ての科目の〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項及び〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域の指導を通して、生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、読書の習慣を養うことが重要である。

なお、読書とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。

問４　現行学習指導要領において標準単位数が４単位である「国語総合」を３単位に減じることは可能であるが、「現代の国語」及び「言語文化」を合わせて４単位として扱うことはできるか。

また、単位数を２単位から１単位に減じることは可能か。

現行学習指導要領における「国語総合」は、「特に必要がある場合」に３単位又は２単位とすることができるとあるが、「現代の国語」と「言語文化」とは目標が異なる各２単位の科目であるため、合わせて４単位として扱うことはできない。

また、必履修教科・科目については、原則として標準単位数を下らないこととされており、標準単位数より少ない単位数を配当することができるのは「生徒の実態及び専門学科の特色等を考慮し、特に必要な場合」のみとされている。また、その場合においても、標準単位数が２単位である場合には単位を減じることができないことに留意する必要があるとされていることから、「現代の国語」及び「言語文化」の２科目を減単することはできない。

問５　単位数の増加が行われた場合の各領域における授業時数はどう扱えばよいか。

「解説」の第１章「第２節　国語科改訂の趣旨及び要点」の「１　国語科改訂の趣旨及び要点」(6)に、各科目の「内容の取扱い」に示された、標準の単位数で実施した場合の各領域における授業時数をまとめている。ここに示された授業時数は、あくまでも標準単位数で実施した場合の時数であり、単位数の増加が行われた場合には、増加した単位の割合に比例した時数が確保される必要がある。

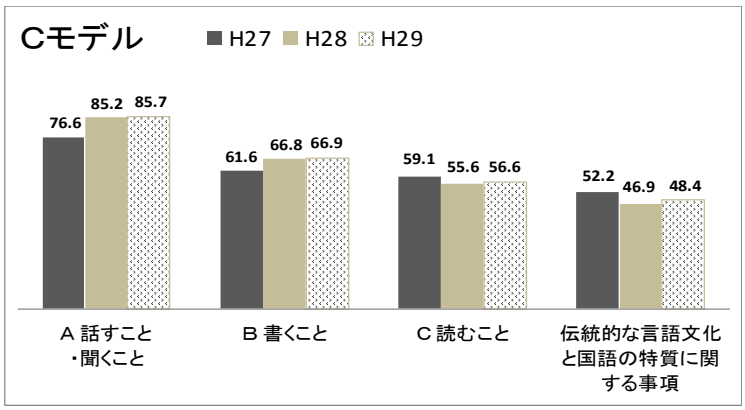
問６　「現代の国語」における常用漢字の指導はどのように行うのがよいか。

第２章「第１節　現代の国語」の「３　内容」「ウ　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと」の中で、常用漢字の指導について、中学校までの漢字の学習の上に立ち、常用漢字の音訓を正しく使えるようにするとともに、主な常用漢字が文脈に応じて書けることを求めている。また、漢字の指導に当たっては、〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域における学習と関連付けながら、文や文章の中で使う資質・能力の育成が求められる。このことから、「基礎的な漢字の習得ができていないなど生徒の実態にもよるが、漢字の学習のみをまとめて取り出して練習したり、短時間のテストなどを継続的に実施したりして指導することは望ましくない」とされている。

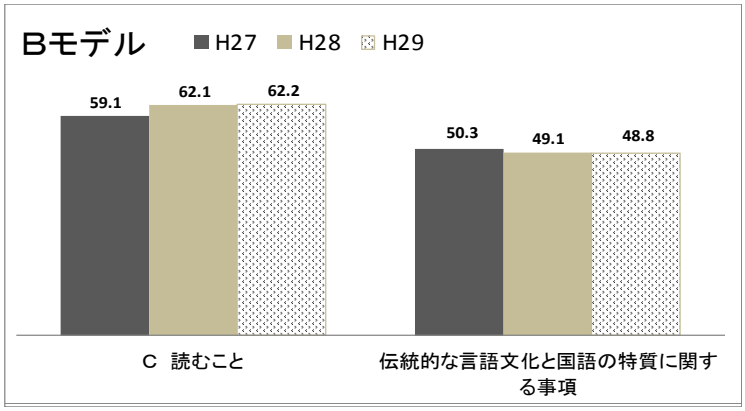
4　新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

(1) 現状の分析等（「北海道高等学校学力向上実践事業」学力テストの分析）

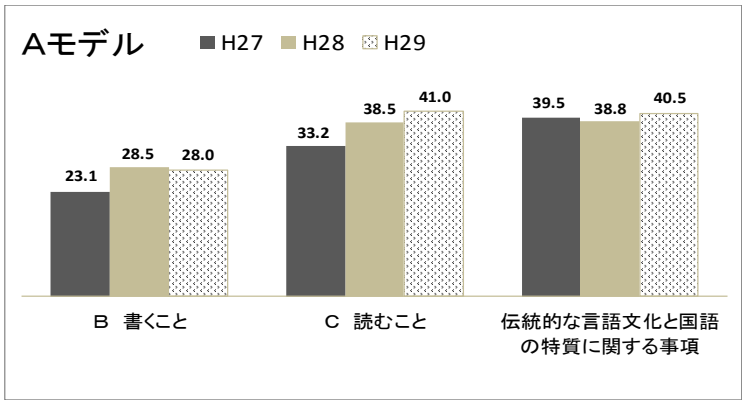
次のグラフは、過去３年間の学力テスト（Ｃモデル・Ｂモデル・Ａモデル）の全道正答率を示したものである。



Ｃモデルは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が、他の領域と比較して低い。また、グラフには表れていないが、「読むこと」のうち、古典分野の正答率が低い傾向が見られる。Ｃモデルのこうした傾向は、昨年度と同様である。



Ｂモデルは、「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のみで構成している。また、グラフには表れていないが、古典分野の正答率が低い傾向が見られる。Ｂモデルのこうした傾向は、昨年度と同様である。



Ａモデルは、「読むこと」の正答率が上昇傾向にあるが、「書くこと」が、「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」よりも低い。特に、文章から読み取ったことについて、自分の考えを論理的にまとめて書くことに課題がある。

「北海道高等学校学力向上実践事業」学力テストの結果から分かる課題や、答申において、話合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていないことなどが高等学校国語科の課題として指摘されていることを踏まえ、次に示す実践事例等を参考にするなどして、各学校の実態に即した指導の改善を図る必要がある。その際、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、例えば、１回１回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであることなどに留意して、授業改善に取り組むことが重要である。

(2) 実践例

「国語総合」における「書くこと」に関する指導の改善・充実の実践事例

1　単元名　他のクラスの生徒からの批評を参考にして、意見文をブラッシュアップしよう

2　単元の目標
- 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てようとする。（関心・意欲・態度）
- 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てることができる。（書く能力）
- 論理的な文章における効果的な具体例の使い方を理解する。（知識・理解）

3　取り上げる言語活動と教材
(1) 言語活動　①論理的な文章を読み、筆者と異なる立場から、自己の意見や考えを論述する活動。
②執筆した意見文に対する他者からの批評を参考にして、意見文を改善・修正する活動。
(2) 教材（例）山崎正和「サイボーグとクローン人間」（『新　探求国語総合』桐原書店）

4　単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
読み手を意識した適切な引例かという観点から、自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにしようとしている。	読み手を意識した適切な引例かという観点から、自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにしている。	主張に説得力をもたせるためには、適切な具体例を論拠として示すことが重要であることを理解している。

ポイント

本単元においては、「書く能力」の育成を目指し、生徒間の相互評価を取り入れた学習活動を設定している。生徒が適切に評価できるようにするために、相互評価の評価規準を提示することが重要である。（関連する学習指導要領の指導事項　「国語総合」内容「B　書くこと」(1)のエ）

5　単元の指導計画

	次	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の注意点
題材の設定 情報の収集	第１次	○単元の学習の見通しをもつ。 ○「サイボーグとクローン人間」を読み、語句の意味や文章の中での使い方を理解するとともに、書き手の考えの強調点を読み取る。全体学習 ○説得力のある文章の条件について考察する。	・筆者と異なる結論の意見文を書き、それを他のクラスの生徒のものと交換し、相互評価することを予告する。
内容の検討 構成の検討 考えの形成・記述	第２次	○筆者と異なる結論の意見文を書くための構想を練る。個人学習 ○２人１組のペアを作り、考えた構想を交流する。ペア学習	・根拠として示す具体例は、読み手を意識し、説得力を高めるのに効果的で、独自性のあるものになるよう指示する。
	第３次	○前時の交流を踏まえ、筆者と異なる結論の意見文を書く。個人学習	・原稿用紙１～２枚程度とする。
推敲・共有	第４次	○２人１組のペアを作り、他のクラスの生徒が書いた２人分の意見文について、説得力を高めるのに効果的で独自性のある具体例を示して論述しているかという観点から、意見文を読み比べ批評する。ペア学習 ○２人１組のペアで分担して、それぞれの意見文について、批評の結果を文章にまとめる。個人学習	・相互評価の評価規準は、「提示されている具体例が、説得力を高めるのに効果的で、独自性があるか」であることを指示する。 ・原稿用紙１～２枚程度とする。
	第５次	○他のクラスの生徒によって書かれた批評の文章を参考にして、自分の意見文を改善・修正する。 ○最初に書いた意見文と書き直した意見文とを読み比べ、学習の成果と課題を整理する。個人学習	・学習の振り返りを行い、自己の変容に気付かせる。

「国語総合」における「話すこと・聞くこと」に関する指導の改善・充実の実践事例

1　単元名　プレゼンテーション形式で発表するために、グループで合意形成を図ろう。

2　単元の目標

・課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合おうとする。（関心・意欲・態度）

・課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うことができる。（話す・聞く能力）

・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）

3　取り上げる言語活動と教材

⑴ 言語活動　プレゼンテーション形式での発表をするために結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための話合い活動。

⑵ 教材（例）　「新聞」…あるテーマに対する立場の異なる新聞社説（２社）のセットをグループ数分

4　単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合おうとしている。	相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。	話すこと・聞くことに必要な文や文章の組立てについて理解している。

ポイント

本単元においては、「話す・聞く能力」の育成を目指し、グループでの合意形成を目指して話し合う学習活動を設定している。話合いの目的は、合意を形成したり思考の深化を図ったりすることであることを、生徒に十分認識させて実践することが重要である。

（関連する学習指導要領の指導事項　「国語総合」内容「Ａ　話すこと・聞くこと」⑴のウ）

5　単元の指導計画

話題の設定
情報の収集
内容の検討
話合いの進め方の検討
考えの形成・共有

次	学習活動	言語活動に関する指導上の注意点
第１次	○単元の学習の見通しをもつ。 ○４人１組のグループを作り、教師が予め用意した「同一テーマで立場の異なる主張をしている２つの社説」群の中から、グループごとに、取り上げたい２つの社説を選ぶ。グループ学習 ○グループで選んだ２つの社説を読み比べてどちらの主張に共感するかを明確にし、その理由を整理・分析する。個人学習	・グループごとに２つの社説のどちらに共感できるか話し合い、その結果をプレゼン形式で発表することを予告する。 ・話合いのルールとして、根拠を示して自分の考えを述べることを指導する。
第２次	○グループごとに、各メンバーの考えとその理由を共有する。グループ学習 ○相手の立場や考えの基となる事実や事柄、考えの形成過程などに着目し、出された意見を精査する。グループ学習 ○より説得力のある社説はどちらかを、グループとして決定する。グループ学習	・話合いを円滑に進めるため、司会者や記録者など、各生徒が担う役割を明確にするよう指導する。 ・話合いのルールとして、相手の考えを踏まえて自分の考えを述べるなど、相手の考えを尊重する態度について指導する。
第３次	○グループごとに、話合いの結末やそこにいたるまでの経緯を、プレゼンテーションソフトを活用して簡潔にまとめる。グループ学習 ※スライド５～６枚、発表時間１グループ５分 ○各グループから全体に、学習の成果を発表する。全体学習	・プレゼンテーション形式による発表は、言語活動であるため、評価の対象にしてはいけないことに留意する。
第４次	○単元の学習を振り返り、話し合いにおける表現の仕方や進行の仕方についての成果と課題を整理する。個人学習	・学習の振り返りを行い、自己の変容に気付かせる。